

だい き だい かい し がいこくじん し みる い いんかい  
第5期 第5回さいたま市外国人市民委員会

にち じ れいわ ねん がつ にち すい  
日時: 令和5年12月20日(水)

ごご じ ふん ごご じ ふん  
午後6時30分～午後8時30分

ばしよ うらわ だい しゅうかいしつ  
場所: 浦和コミュニティセンター 第15集会室

し だい  
次 第

かい かい  
1. 開 会

ぎ じ  
2. 議 事

だい き し がいこくじん し みる い いんかいていげんないよう  
(1) 第5期さいたま市外国人市民委員会提言内容について

れんらくじこう  
3. 連絡事項

へい かい  
4. 閉 会

だい き 第5期さいたま市外国人市民委員会 委員名簿  
し がいこく じん しみん しいんかい  
いいん めいぼ

	氏名	フリガナ	備考
1	頼 沃徳楽	ライ ウダラ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
2	王 蕾	オウ ライ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
3	羅 昊	ラ コウ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
4	西川 ナンシ	ニシカワ ナンシ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
5	ノルル シャズミラ	ノルル シャズミラ	
6	金 京垠	キム キョンウン	
7	ディプティ アナンダ ムルティ	ディプティ アナンダ ムルティ	
8	山下 美賢	ヤマシタ ミサト	
9	Yanagida Ann Lisa	ヤナギダ アン リサ	
10	Namba Marilyn Joy	ナンバ マリリン ジョイ	

ぎろん  
議論テーマ

- ・日本語の勉強について
- ・生活に必要な情報の収集方法について
- ・やさしい日本語について
- ・防災について

1 日本語の勉強について

- ・地域の日本語ボランティア教室が一番役に立つし、他の日本に来たばかりの外国人にもボランティア教室のことを教えている。
- ・日本語教室に学習者として参加する方の年代によって、それが若い方だったらどういふことに興味を持っているかをリサーチして、いろいろな年代の方が集まれるように工夫をすると良い。

2 生活に必要な情報の収集方法について

- ・市の事業などの情報が入手できなくて困ったことがあった。市役所で住民登録をする際に、市がオリエンテーションをすれば、地域のことが分かってよいと思う。
- ・外国人が転入したときに、オリエンテーションや、IT のツールを通じて、例えば住民票がコンビニでとれるというようなことも伝えられる仕組みづくりができれば、時間の削減ができるのではないか。
- ・QR コードで情報を周知するとか、駅など人が集まるところに掲示してあると良いと思った。
- ・生活のことで困ったときには、県の外国人サポートセンターを利用している。外国人向けの情報は、駅や大型の商業施設にあったら良い。また、自治会に依頼するのも良いと思う。
- ・イベントに参加してほしいという話を直接してもらったら、外国人は嬉しくて参加すると思う。そういう場に参加すれば、交流もできるし、情報をもらうこともできるのではないか。

3 やさしい日本語について

- ・実は日本語が分からないけど、言えないという外国人はたくさんいるのではないか。行政がやさしい日本語で書いているものは、役に立っていると思う。
- ・フリガナを振って、短く書いてあるとやさしい日本語に見えるけれど、実はその内容が熟語で、日本語が分からない人には全くやさしくなかったりする。小学校の低学年くらい

の子が理解できるレベルの文章にするとか、文章にできなければ絵をつけるとかの工夫で、色々な人が助かると思う。

・まず日本語をある程度マスターしないとやさしい日本語の「やさしさ」を感じないと思う。それだったらそもそも最初から絵にした方がよい。また、外国語の訳を最初に書いておいて、最後に日本語の注釈をつけるなど、外国語の視点に立ってやさしい日本語を作る方がよいと思った。

・やさしい日本語は、日本語の基礎がある人には分かりやすいと思う。本当に何も分からない人には正直なところ、あまり役に立たないかもしれないと思った。

・文字だけだったら日本語を理解するのは難しいので、表など文字じゃない方法でも書いてほしい。

#### 4 防災について

・防災アプリについて、区役所でポスターを見て知ったが、みんなに伝えるのは難しいと感じる。市報に出ていれば見るかもしれない。

・例えばアプリをダウンロードするとヌウのスタンプが無料でもらえるなどのやり方も、今風で良いかもしれない。

・日本は災害大国でもある。そういう事実を市が発信して、外国人の災害に対する意識を高めてもらう必要がある。市がある程度の数の救命バッグを購入し、割引をして外国人に販売できれば良いのではないか。災害が起きた後に負傷者を救助するよりも、事前に自分で備えようという呼びかけが必要なように思う。

・私は防災関係の情報はインターネット上の外国人コミュニティから得ている。そこではテレビやスマホのニュースより情報が早い。日本人から情報を得るより、外国人同士の間で共有されることが多いのではないかな。

・情報は市報だけではなく、日本語教室のホームページにも載せるとか、情報は1か所に集中して載せるより、分散して載せた方が情報を得られる人は多くなると思う。色々な情報が載っていれば、アクセスもよくするようになり、その情報を外国人同士でシェアするようになるかもしれない。

・WEBのプロバイダに広告料金を払って、検索結果一覧の上の方に表示してもらうという方法もあるので検討してみると良い。

ぎろん  
議論テーマ

- ・学校・保育園について
- ・コミュニティについて
- ・仕事について
- ・役所の手続きや情報発信について
- ・やさしい日本語について

1 学校・保育園について

子どもの時、日本人の顔をしているから、言葉も分かると思われていたようだ。実際は外国で育っているから、言葉も苦手で、授業もまったく分からなかったのに、本人のやる気がないというようにみなされた。

子どもが小学校に入学したとき、私も子どもも日本語が苦手で、あれもこれもできないと指摘されてしまった。2学期に入ってから、日本語支援の先生が手伝ってくれたので、そこからどんどん理解ができるようになった。1学期からだったらもっと助かった。

最初は日本の学校の生活のことについて全然分からなかった。高齢者のシルバーワークで、学習会があるが、上の子の時は知らなかった。そういう場所があるということは、全部日本語で書いてあり、少し読めるようになってから分かった。

子どもが来年小学生なので、保護者説明会に参加した。そこまで難しいことはないと思っていたが、実際現場に行き、説明を聞いてみると、分からないことばかりだった。終わってから、実は私は外国人で、書類が書けなかったことと、入学後授業などの進み方についていけるのか心配だと相談した。そうしたら、後日学校から電話をされると言われたのでありがたかったのだが、まだ電話がない。

2 コミュニティについて

アメリカには ESL という良い制度があり、その外国人の子どもの言葉のケアをレベルごとにしてくれて、さらに、日常生活のサポートを受けられるよう、言語ごとのコミュニティにつなげてくれる。日本でもそういう制度があればとても良いと思っている。

自分の親は日本から移住したので、日本人のコミュニティの中で、学校のことをお互いに教えたり、困りごとを共有していた。同じ境遇の人と知り合えるイベントがあるとよい。

3 仕事について

・今新型コロナの影響で、仕事がない人がたくさんいるので、市からも派遣会社や仕事

を、外国人の実習生とか学生の方に紹介してほしい。

・言葉が通じないと、単純作業だけを割り当てられたり、注意をするときも日本人相手にはしないようなとてもきつい言い方をされる。外国人労働者が現場に入ったときに言葉がわかるように、最低限の語彙力をつける研修があると、働く人の環境やできる仕事の範囲が変わる。

・子どもの保育園には外国人の先生がたくさんいるが、日本語が分からないとあまり長く仕事ができなくて、転職してしまう。日本での生活は難しいと言っていた。なかなか日本語が勉強できる場所がないとのことなので、支援があったらよいと思う。

#### 4 役所の手続きや情報発信について

・いつもアクセスしているところだと情報は得やすい。図書館だと自由にゆっくりと見られるし、いろんな情報を得て、そこからつながりを持てたり、イベントに参加してみようかという気持ちになる。

・技能実習生は東南アジアからの方が多い。みんな日本に来たとき、とても困って、結局自分のグループに固まることになる。情報もなく、新型コロナのワクチンも申込みや手続きができないということが、本当に大問題だと思う。

・やさしい日本語と、簡単な英語で説明してもらえると、外国人も申し込みやすいし、方法を覚えた人から友達や親戚にも教えられて、みんなが助かる。

・外国に住んでいる友人に送金したかったが、マイナンバーカードが必要だと分かった。そこで区役所に相談に行ったところ、説明が雑で、WEBサイトを案内されただけだった。

・外国語で手続きについて書いてあるリーフレットもあるが、その言語が母国語ではない可能性もあるので、イラストなどでどのボタンを押すかわかりやすく書いてあると助かる。

・学校にいる日本語指導員は、他の場所でもグループを集めて活動していたりするので、色々なお知らせを渡して、広めてほしいとお願いしてもよいのではないかと。

・初めて日本に来たときは、日本語がわからなかったのが、通っていた日本語学校の職員が学生をまとめて、役所で一緒に手続きをした。今はマイナンバーなど手続きが多岐にわたるので、日本語が苦手な人が困ることが多いと思う。

・婚姻届を日本で提出するときに、受理してもらうまでに5回かかった。4回目ですべて必要書類の一覧をもらい、なぜ最初からくれなかったのか、と思った。

#### 5 やさしい日本語について

・役所の職員だけでなく、スーパーの人、飲食店の人など日常で接しているいろんな日本人に、やさしい日本語の存在だけでも認識してほしい。外国人にとっては、本当に助かる。

第5期 第3回さいたま市外国人市民委員会での意見

1 主な意見

- ・日本語を教えてくれるボランティアの活動内容や時間を考えると、高齢の方になってしまふのは仕方ないと思う。年齢を重ねているからこそ丁寧に教えられることもあると思うが、通いやすい雰囲気づくりという意味では、年が近い人の方が良いかもしれない。活動を知ってもらえれば、色々な人がボランティア活動に参加してくれるかもしれない。
- ・学校の流れに関するビデオを、外国人が一人で見ても理解できないだろう。学校の先生と一緒に見られれば理解度が上がるので、誰かと話しながら見る機会を作してほしい。
- ・外国人市民委員会での毎回の意見が今後どのようにつながっていくのか気になっていた。今日総合調整会議でのフィードバックをもらえてとても嬉しい。
- ・学校の書類を説明会の時に書いていくことができなかったが、その後、学校から連絡があり、口頭で状況を伝えて、学校で書いてもらえることになった。一度オリエンテーションのようなものを開いて、みんなで状況を共有できれば助かる。
- ・私の国では初対面で年齢を聞き、年上なら必ず敬語を使う。やさしい日本語を使い、あえて敬語を使わない、という配慮を知らなかったら、私はどう思っただろうと考えてしまった。長く日本に住んで、日本のことを分かっているつもりだったが、分からないところがあった。こうやってお互いに理解が深めることは、外国人が社会に出てつながりを持つ上で大切だ。
- ・税に関する言葉はとても難しく、分かりにくいので、納税の仕組みを説明する講習会があれば、安心して納税できるのではないか。
- ・手続きについて翻訳してある説明資料があっても、日本人の誰かが一緒に見て、一緒に書類を書くという作業は必要だ。
- ・誰も教えてくれなかったので、医療費控除やふるさと納税の制度があることをつい最近まで知らなかった。医療費控除については、医療機関にお知らせを貼っていただくだけでも違うのではないか。
- ・病院等で通訳ができるレベルの語彙力を身に着けたいと思っているが、そういったスキルはどこで勉強ができるのか、講座が受けられる場所があれば教えてほしい。
- ・子どもの具合が夜悪くなり、救急で見てもらいたかったが、必ず受診前に電話を求められる状態を日本語で説明するのは難しい。
- ・電話で説明できなかったため、結局直接病院に行った。遅い時間は診てくれる病院が限られてしまい、困った。救急でかかれる場所はかかりつけ医に聞いたが、自分で調べることができなかつたり、知り合いがいなかつたりしたら、病院にかかれないうらい。
- ・夜間の緊急時だけでも、外国語に対応できる窓口があれば良い。どこに聞けば分かるのかだけでも教えてほしい。

- ・日本語が分からなくても、電話で棒読みするだけで救急車を呼べるようなシートがあれば良い。
- ・子どもを妊娠した時に、英語と日本語(バイリンガル)の母子手帳を区役所でもらって助かった。指差し会話帳がついていて、便利。知らない人もいるかもしれない。
- ・使いやすい翻訳アプリがあれば、周知してもらいたい。
- ・子どもの具合が悪くなった時、夜間診療の窓口、症状は伝えられたが程度がうまく伝えられずに、今診てほしかったのに、お持ちの薬を飲んで様子を見てくださいと言われて終わってしまった。そういうものもマニュアル化しておけばスムーズに進むのではないか。
- ・地域日本語ボランティア教室で、年2~3回、医療や防災について教えてもらえる機会があり、とても役に立っているので継続してもらいたい。
- ・情報を教えてもらえる拠点が見つかる場所になればいい。地域にいる人たちでそういうことができる人を育ててほしい。

## 2 今後検討するテーマについて

- ・魅力的な日本の文化はたくさんあるので、文化体験の紹介、地域資源の活用というのは魅力的なテーマだと思う。イベントに参加して日本の生活のことが分かったり、友達を作ったりできる機会があると馴染みやすくなると思う。
- ・外国人がボランティアをする機会がもっとあっていい。
- ・国際交流センターが主催している国際友好フェアでは、民族衣装を着て踊る人もいるし、自分の国の料理を作って販売する人もいる。そういうイベントでも、交流ができて良い。
- ・人形博物館のような日本の文化を伝える施設で、外国人が案内役を務めるのも面白いと思う。
- ・さいたま市では浦和レッズも有名だし、人形、盆栽などの伝統文化もある。桜を見たり、いちご狩りをするバスツアーがあってもいい。日本語の勉強にもなるし、そういった場で外国人に情報提供もできるのではないか。
- ・外国人と日本人の親子を集めて料理をしたり、楽器を演奏したりするのも交流ができて良い。
- ・役所の手続きで必要なもののリストは、写真付きのものがあると良い。
- ・サポート役のコディネーターにすぐ相談できる窓口があれば良い。最近ではAIの技術も発達しているので、そういったものを活用するのも1つの方法だと思う。
- ・自治会のことを知らない人も多い。回覧板の存在や、マンション在住でも加入することも知らず、また、盆踊りなどの町内イベントに参加していいかどうかも分からなかったのので、お知らせしてもらえる場があると良い。
- ・日本の交通ルールが分からない。子どもが自転車に乗り始めたので心配である。また防犯についても強盗などの事件があったりするので、そういった情報が手に入りやすいと良い。日本語の情報はあがるが、外国人にも分かりやすいと良い。



ぎろん  
議論テーマ

- びょういん  
・病院について
- じょうほう はっしん  
・情報の発信について
- ていげん  
・提言テーマについて

おも いけん  
【主な意見】

・外国人は現在30,000人くらいいて、年間2,000人くらい増えており、外国人を支援する人が今後必要になってくる。外国人を支援する外国人も必要になり、知識やノウハウをトレーニングする機会が必要。支援できる外国人を育てるシステムがあれば、外国人の住みやすいまちづくりにつながっていく。また外国人の活躍の場にもつながっていく。

1 びょういん  
1 病院について

・妊娠をした際に、女性の医者であること、痛み止めをもらえること、英語を話すことができること、の3つを条件に病院を探したが、うまくいかなかった。

・女医さんがいる病院のマークや子どもがいく病院のマークがあればいい。

・病院ひとつひとつの詳細を調べるのは外国人には難しい。電話をかけてみないとわからないが、電話となると躊躇してしまう。

・妊娠や出産は外国人じゃなくても、初めてだったら大変なこと。それに関して手伝いをしてくれる外国人のボランティアがいればいい。

・そういうサポートの人を育てることで、住みやすい場所になっていく。

・三者通訳のような病院に行くときに使えるツールや連絡先のリストがあるとよい。

・病院に行くときは、通訳が必要な場面もあるが、妊娠をしたときなどプライバシーにかかわるところでは、何かアイコンのようなものを示して医者に伝えるようなものがあるといい。

・痛さをどのように話したらいいかわからなくて困る。何度かかかった病院に行った時に、医者が「痛さを1～10までとして、前回は5だとすると、今日はどうですか」と聞いてくれて、すごく伝えやすかった。度合いを確認するときに、数字でレベルを表すと通じやすいということを伝えてくれるといい。

2 じょうほう はっしん  
2 情報の発信について

・市のWEBサイトを見るとしっかりとできているが、もうひとつわかりやすくするためにFAQがあるといい。

・8歳以下の子どもや65歳以上の年配の人は WEB を使えないかもしれないので、別の方法を考えなくてはならない。

・市内のコンビニや外国人がよく行くスーパーに、WEB ページにつながる QR コードを置くのはどうか。

・情報を伝えるためのアプローチの方法は何種類があってもいい。

・さいたま市には出入国管理局の出張所もあるので、在留カードを作るときにごみ捨てなど、日本の習慣を説明できるようなビデオを作ってみてはどうか。

・韓国に行った時に、電車の中で、電車内でのマナーについてのビデオが流れており、英語、韓国語、日本語の説明も書いてあった。

・文章で書いてあるよりも、動画や絵の方がわかりやすい。

・市の LINE を見ていると、日本語で色々な情報が出てくるが、外国語でそういった情報が出てくるといい。言語設定ができて、色々な情報が調べられて、情報が手に入るといい。

・家族や友達が来るときにさいたま市のいいところを案内したいので、色々なところの情報を知りたい。

・市内のレストランや観光スポットを市の発信する情報に載せてあげて、そのかわりにその場所のクーポンをさいたま市に引っ越してきた外国人に配るのはどうか。情報に載せるお店やスポットの条件としては、異文化や海外の人を歓迎するところ。

・駅の前とか目に付く場所で PR をするとよい。QR コードを配ってその場でスキャンしてアクセスできるといい。

・さいたま市には児童館や市民プールなど、子どもと遊ぶところがいっぱいあるので、外国人の保護者に案内したほうがいい。日本人の子どもとも一緒に遊べて、友達になれる。

・さいたま市の外国人の学生に食べ物や遊びを紹介してもらって、「さいたま市の魅力を紹介しようプロジェクト」のようなものもいい。

### 3 提言テーマについて

・さいたま市に住んでいる外国人の人が一歩先に進める内容にしたい。若くても、お年を召していても、家族がいても、一人でも、みんなが含まれるものもいい。

・「外国人とコミュニケーションが取れる住みやすいまち」というのが一つ。コミュニケーションだと情報発信も含まれるし、生活を向上させるという意味もある。「人の心を思いやれる場所、まち」であれば、日本人の人でも外国の人でも共通して言える。

・「英語が話せる医者でなくてもいいが、やさしい医者は必要」という言葉が心に残っており、「住みたいまち、やさしい地域と地域のつながり」というのを思いついた。

・今出た提案とコミュニケーションに関するものを合わせて提言テーマにできるといい。

だい き がいこくじんしみんいんかい だい かい ていげん なが よてい  
第5期外国人市民委員会 第4回～提言までの流れ・予定

が づ だ い かい いんかい 9月：第4回委員会  
ていげん む しほ こ いけん だ  
⇒ 提言に向けたテーマ絞り込み、意見出し

↓

じむきょく ていげんしょ そあん さくせい  
・事務局による提言書(素案)作成

↓

が づ だ い かい いんかい 12月：第5回委員会  
ていげんしょ そあん かくにん いけん だ  
⇒ 提言書(素案)の確認・意見出し

↓

じむきょく ていげんしょ さいしゅうあん さくせい  
・事務局による提言書(最終案)作成

↓

が づ よてい だ い かい いんかい 1月末(予定)：第6回委員会  
ていげんしょ さいしゅうあん かくにん いけん だ さいしゅうちようせい  
⇒ 提言書(最終案)の確認・意見出し・最終調整

↓

じむきょく ていげんしょ さいしゅうばん さくせい  
・事務局による提言書(最終版)作成

いんちよう いん さいしゅうかくにん とう  
・委員長・委員による最終確認(メール等)

↓

が づ よてい しちよう ていげん  
3月(予定)：市長への提言

だい き  
第5期

しがいこくじんしみんいんかい  
さいたま市外国人市民委員会

ていげんしょ あん  
提言書 (案)

## 外国人市民が地域社会に参加しやすく、つながりを持ち続けられるまちの実現に向けて

私たち、第5期さいたま市外国人市民委員会は、今後さらに増加すると考えられる外国人市民にとって、「地域とのつながりを持って、外国人も活躍できるまち」、「必要な情報が行き届き、住みやすいまち」の実現のため、次のように提言します。

### 1 外国人市民が地域で活動しやすいまちづくり

外国人市民が地域の活動に参加し、活躍できるまちの実現のため、次のように提言します。

#### (1) 外国人市民が活躍できる場の充実

日本の良さを伝えたいという外国人市民も多いため、ボランティアをする機会を充実させるなど、外国人材の活用を進めてください。

例えば、美術館や博物館などで外国人市民が案内役をすることで、地域との交流にもつながると考えます。

#### (2) 外国人人材の発掘・育成

外国人市民が自ら活躍する場を拓げられるよう、外国人ボランティアの育成を推進してください。地域の外国人を支援できる外国人市民が増えることで、住みやすいまちづくりにもつながっていきます。

## 2 外国人市民が地域とのつながりを持ちながら暮らせるまちづくり

外国人が国籍の違いに関わらず、社会とのつながりを持って暮らすために、次のように提言します。

### (1) 外国人市民が参加できる地域イベントの開催

外国人と日本人の親子が一緒に参加できる料理教室や楽器を演奏しながら交流するといった、外国人市民と日本人市民が一緒に参加できるイベントを開催してください。その場で日本人の知り合いを増やすことができ、その後の地域の活動にも参加しやすくなるため、外国人市民の地域活動への参加促進につながることができます。

## 3 外国人市民への情報発信・情報提供の充実

外国人市民が言語や文化の違いに関わらず、安心して生活できるようにするためには、次のような課題があります。

- ・ 役所での手続きがわからない
- ・ 市の情報をどのようにして得たらよいかかわからない
- ・ 学校生活に関する理解が不足している
- ・ 病院を探したり、医者とのコミュニケーションを取るのが困難

これらの課題に対して、必要な支援や適切な情報提供をして、外国人市民が安心・安全に暮らせるまちづくりを目指してください。

## (1) 役所での手続きについて

まったく日本語ができない場合は、やさしい日本語であっても理解ができないため、役所の手続きに必要なものを、写真や図を用いたリストで用意すると、理解できる人が増えると考えます。

## (2) 生活に必要な情報の発信について

(i) 外国人市民が暮らしに必要な情報を受け取りやすいよう、商業施設や駅など、外国人市民が多く訪れる場に、二次元コードを設置するなどして、情報が得られる場所を増やしてください。

(ii) さいたま市の SNS では、生活の情報やイベントの情報が発信されていますが、日本語がわからないと情報を得ることができません。SNS で発信されている情報が、外国人にも行き届くようにしてください。

## (3) 学校生活の支援について

外国人は、日本の学校生活に馴染みがない方が多いので、まず日本の学校について理解するための支援をお願いします。例えば、学校の流れに関するビデオを学校の先生と一緒に見たり、学校生活に必要なものを説明するオリエンテーションがあると助かります。

## (4) 病院に受診する際の支援について

病院を探すときにインターネットを使っても、病院の詳細や予約が必要な

のかどうかまで調べるのは難しいので、そういった時の情報の提供や相談  
できる場所の周知をお願いします。また受診する際にも、医者とのコミュニ  
ケーションが難しい外国人のために、三者通訳などのサービスや病院に行  
くときに使えるツール、連絡先のリストの提供などをしてただけると助かり  
ます。



だい き  
第4期

しがいこくじんしみんいじんかい  
さいたま市外国人市民委員会

ていげんしょ  
提言書

こくせき ちが かが かか しみん あんしん す つづ みりよく まち  
国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたい魅力ある街づ  
む  
くりに向けて

わたし だい き し がいこくじん しみん いんかい こんご ぞうか かんが  
私たち、第4期さいたま市外国人市民委員会は、今後さらに増加すると考  
えられる外国人市民にとって「安心して住み続けたいと思えるまち」、「魅力ある  
まち」を目指すため、次のように提言します。

1 がいこくじん こそだ こ がっこうせいかつ ひつよう しえん  
外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について

がいこくじんしみん し こそだ ほいくえん ようちえん がっこう  
外国人市民がさいたま市で子育てするときや、保育園、幼稚園、子どもの学校  
せいかつ  
生活にあたっては、次のような課題が挙げられます。

- こそだ がいこくじん こうりゅう ば ふそく  
・子育てをしている外国人の交流の場の不足
- にほんご しえん  
・日本語の支援
- がっこう はいふ しよるい たげんごか  
・学校から配布される書類の多言語化
- がいこくじん こ かんきょうづく  
・外国人の子どもをサポートしてくれる環境作り
- がいこくじんほごしゃ さんか  
・外国人保護者のPTAへの参加
- いじめ さべつ たいおう など  
・いじめ、差別への対応 など

これらの課題に対して、必要な支援や、適切な情報提供をして、外国人市民  
あんしん く めざ  
が安心して暮らせるまちづくりを目指してください。

こそだ かにい しえん  
(1) 子育て家庭への支援

がいこくじんかにい こそだ おな きょうぐう がいこくじん せつきよくてき  
外国人家庭のための子育てサークルや、同じ境遇の外国人が積極的に  
こうりゅう  
交流できるオンライン、オフラインの場を作ってください。また、外国人と  
にほんじん ほごしゃ こうりゅう ば おお つく  
日本人の保護者が交流できる場を多く作ってください。

がいこくじん こそだ なか ひつよう じょうほう え  
外国人が子育てをする中で、必要な情報がわかりやすく得られるように  
がいこくじんむ いくじそうだんかい じっし  
外国人向けの育児相談会なども実施してください。

## (2) 日本語支援

がいこくじん こ ほうかご ほしゅうじゅぎょう おこな にほんご しえん おこな  
外国人の子どもへ放課後に補習授業を行うなど、日本語の支援を行って  
ください。また、がいこくじん ほごしゃ たい へいじつ やかん どにち じかん  
外国人の保護者に対しても、平日の夜間、土日などの時間に  
こうみんかん し しせつ かつよう にほんごきょうしつ かいこう ほか  
公民館や市の施設を活用した日本語教室を開校してください。その他にもオ  
ンラインでの日本語教室をレベル別に開催してください。  
にほんご まな さい にほん せいかつ ひつよう しゅうかん にほんぶんか  
日本語を学ぶ際に、日本での生活に必要なルールや習慣、日本文化につい  
てもあわ まな せいかつ ふあんかいしょう  
併せて学ぶことができれば、日本での生活における不安解消につながり  
ます。

## (3) 学校からの情報提供の多言語化について

がっこう はいふ しょうい たげんご ていきょう りそう ぼうだい  
学校から配布される書類を多言語で提供してもらうのが理想ですが、膨大  
ほんやくさぎょう ひつよう じょうほうていきょう  
な翻訳作業が必要となるので、メールやホームページで情報提供してくだ  
さい。ほんやく かつよう ひつよう げんご ほんやく  
翻訳サイトやアプリを活用することで、必要な言語に翻訳することが  
できます。

## (4) サポート役のコーディネーターの配置

がいこくじん こ がっこうせいかつ にほん せいかつ な こま こと  
外国人の子どもが学校生活や日本での生活に慣れるため、また、困った事を  
そうだん やく はいち かくがっこう  
相談できるよう、カウンセラーや、サポート役の配置をしてください。各学校  
はいち むずか しないかくしょ ちいきべつ はいち  
に配置することは難しいかもしれませんが、市内各所への地域別の配置や、  
がっこうほうもん でんわ たいおう しえん ねが  
学校訪問、電話での対応などの支援をお願いします。

## (5) PTAの参加への支援

日本語が理解できない外国人にとって、PTAの役割や活動内容を理解するのは、大変なので、外国人が参加しやすくなるようにマニュアルや、多言語での説明資料を作成してください。

## (6) いじめ、差別への対応

異なる人種や価値観、習慣などを認め合えるよう、外国人講師による国際交流や国際理解の授業を行ってください。また、子どもが孤立しない工夫や、心が傷ついてしまった子へのケアを行ってください。

## 2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み

外国人が「さいたま市に来たい、来てよかった」と思ってもらえるまちづくりを進め、活気にあふれるまちを目指すため、次のように提言します。

### (1) 文化体験の紹介・地域資源の活用

外国の方が日本の文化を体験できる、紹介ウェブサイトやアプリを作成するとともに、パンフレットを作成し、観光案内所に配置してプロモーションしてください。

また、ヨーロッパ野菜を使った朝市その他、氷川参道や遊歩道、高架下などを利用したマーケットなどを、駅の近くで開催するとより多くの観光客が楽しめると思います。

## (2) ホームページ、SNS について

- (i) さいたま観光国際協会が作成しているホームページについて、多言語での観光の情報発信をしており、内容も充実して良いと思いますが、施設やツアーの予約まで出来るとより良いサイトになると思います。
- (ii) SNS を用いた交流や、情報発信を多言語で積極的に行ってください。
- (iii) YouTube を活用し、さいたま市の観光地や、公園、お店などの動画を積極的に発信してください。

## (3) コンベンション、イベントについて

さいたま市が持っている資源や立地を生かし、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム2002などの施設と連携して、国際的なコンベンションやイベントの誘致・開催を行ってください。

コンベンションの際に、大宮の盆栽、岩槻の人形、浦和のうなぎ、漫画文化などを用いたイベントを行い、情報発信をすることで、さいたま市の魅力を多くの人に伝えることができると思います。

第1期～第4期さいたま市外国人市民委員会提言内容について

○第1期(2014～2015年)

「外国人も暮らしやすいコミュニケーション豊かなまちづくりに向けた提言」

1 働きやすさについて

- (1) 外国人を雇用する企業に、外国人の採用時、就労に必要なオリエンテーションや採用時の契約に係る説明をしっかりと行うよう、働きかけてください。

2 外国人家族に対する日本語と教育の支援について

- (1) 日本語の学習だけでなく、相互理解につながる日本語を学ぶ場の提供を、継続してください。
- (2) 子どもたちが、日本語だけでなく、学校の勉強も学べる場を充実してください。

3 住みやすさについて

- (1) 住民票等の公文書を外国語でも発行してください。
- (2) 自然災害や環境汚染など、健康や生活に影響のある情報を継続的発信してください。

4 日本人と外国人の相互理解の促進について

- (1) さいたま市に住んでいる外国人の考えを、外国人により情報発信する機会と交流の場を検討してください。
- (2) 多機能な相談窓口を設置して、生活や学習などの社会資源を、分かりやすくまとめた情報を提供してください。

○第2期(2016～2017年)

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたさいたま市における多言語表記及び

外国人観光客へのボランティアの関わり方について」

1 さいたま市における多言語表記について

(1) 伝わりやすい多言語表記

(2) 文化や習慣の違いを意識した多言語表記

(3) 外国人観光客がさいたま市にまた来なくなるアイデア

2 外国人観光客へのボランティアの関わり方について

(1) ボランティアへ期待すること、望むこと

(2) ボランティアの育成及びサポート体制について

(3) 外国人市民としてのボランティアなどへの関わり方について

○第3期(2018～2019年)

「今後さらなる増加が予想される外国人市民にとって、住みやすい社会の実現と地域社会と

の共生に向けて」

1 外国人市民が暮らしやすいまちづくり

(1) 外国人市民に対する情報提供の充実

(2) 日本語が不自由な外国人市民に対する支援

(3) 外国人市民の地域コミュニティへの参画と共助

(4) 外国人市民の防災意識の向上と災害時対応

## 2 人材を有効活用した国際交流が活発なまちづくり

(1) イベント等での外国人市民の有効活用

(2) 国際交流活動を行う外国人市民への支援

### ○第4期(2020～2021年)

「国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたい魅力ある街づくりに向けて」

#### 1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について

(1) 子育て家庭への支援

(2) 日本語支援

(3) 学校からの情報提供の多言語化について

(4) サポート役のコーディネーターの配置

(5) PTAの参加への支援

(6) いじめ、差別への対応

#### 2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み

(1) 文化体験の紹介・地域資源の活用

(2) ホームページ、SNSについて

(3) コンベンション、イベントについて